

編集後記

消化管疾患の診療は日々改良, 更新されており, 新しい疾患概念や新しい機器, それらに伴う種々の知見が生まれてきている. それらの新しい知見により, 消化管疾患に関わる新しい分類が生まれ, 元からあった分類も改良がなされてきている.

「胃と腸」誌では, 消化管疾患に関連する分類に特化した初めての特集号「消化管疾患の分類2019」を発行しているが, それからの5年で消化管医学の急速な進歩や新たな診断・治療法の開発に伴い, 新分類や改訂分類が数多く報告されている. そこで消化管疾患の診断・治療に適用されている分類を改めて吟味し直し, 2024年時点における消化管の臨床, 学会発表, 論文作成に必須と思われる分類を選択し, 「消化管疾患の分類2024」として, 専門領域の先生方に改めて解説いただいた.

「胃と腸」誌の根幹をなすのは経験に基づいた画像を中心とした実践の医学であり, 執筆に当たっては2019年版に引き続き, 基本的考え方, 変遷, 臨床的位置付け, 使用における注意点, 典型例の画像について記載いただき, 概念から診断, 治療までの実践に重きを置いた執筆をお願いした.

掲載した項目は, 現在の消化管診療に重要と思われる分類を中心に採用し, 新しく作成された分類も採り入れた. 一方で, 以前は重要であったが時代的に役目を終えた分類や機能性疾患に関する分類は紙面の都合もあり割愛した. 今回新しく掲載された分類は, 占居部位別領域リンパ節分類(食道癌取扱い規約), Barrett 食道腺癌の壁深達度分類, 日本食道学会拡大内視鏡分類(Barrett 食道腺癌), 自己免疫性胃炎の病期分類, eCura system, 形質発現による胃癌の分類, 胃腺腫の組織学的分類(形質発現による分類を含む), 十二指腸腺腫・癌の粘液形質による分類, 十二指

腸腺腫・癌の内視鏡による分類, 放射線性腸炎の病期・内視鏡重症度分類, 好酸球性消化管障害の分類の11分類である. 2019年時点でも重要な分類として存在していたにもかかわらず掲載に至らなかったものもあるが, 大部分は日本の消化管疾病構造の変化に関わるトピックスであるBarrett 食道, 自己免疫性胃炎, 十二指腸腫瘍などに関連した項目が選ばれていることがわかる. その他, 2019年版で取り上げた項目についても, 項目の1/3は分類や分類活用法の改変が行われており, 執筆者についても6割が変更されており, 2019年版と同時に精読すると同じ分類であっても異なる面からの見方ができる.

草稿を拝見している段階での注目項目の一つ挙げると, 自己免疫性胃炎の病期分類では, 近年の自己免疫性胃炎に関する知見を総合した秀逸で壮大なスキーム図を示しており, 文章で構築する分類を超えた分類表現法となっている. 自己免疫性胃炎を一目で理解可能であること間違いなしである. その他の項目についても, 分類を取り扱うだけあって, 単発の用語を取り扱う用語集などとは異なり, コンパクトにまとめた総説集を読んでいる感覚である. さらには美しい画像を用いた分類の実例を示したことから, 読者にとって最良のアトラスとして利用いただくことも期待できる.

今回の分類集は, 序説で松本編集委員長が述べているように分類イコール診断であり, 消化管疾患診断に必須の事項をまとめて掲載している. 消化管の日常臨床と学術活動のいずれにおいても必須のリファレンスであるとともに, 美しい画像のアトラスとしての役割もある. 熟読するもよし, 調べ物に使うもよし, 消化器診療を行うにあたり, 前特集に引き続き本書を手元に置き, 診療に当たられることを希望し, 編集後記とする.

福井県立病院病理診断科 海崎 泰治